

## 2019年度(第5回) 日本セラミックス協会フェロー表彰

2010年の公益社団法人への移行後、本会は中期経営計画を策定し、その中で「表彰制度の在り方の見直し」を掲げ、表彰制度検討委員会を設置して検討を進めて参りました。その結果、協会創立125周年である2015年から、新たに「日本セラミックス協会フェロー表彰」制度を導入しております。

本フェロー表彰は、本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた本会個人会員を本会として称え、日本セラミックス協会フェロー(英語名称: CerSJ Fellow)の称号を授与することで、本会を代表するに相応しい会員としての活動を続けていただくとともに、本表彰により会員の本会活動に対する参加意欲の増大を促し、セラミックス分野の更なる発展を図ることを目的としています。

フェロー表彰候補者選考委員会にて慎重な審議を行い、受賞候補者として次の26名の方が理事会に推薦され、2019年11月27日の理事会で最終的に受賞者として決定いたしました。ここに各受賞者のフェロー表彰推薦理由を紹介いたします。

### 受賞者一覧

(26名 氏名五十音順、所属は受賞時点のもの)

赤津 隆	佐賀大学	須田 明彦	(株)豊田中央研究所
淡野 正信	産業技術総合研究所	須山 章子	東芝エネルギーシステムズ(株)
伊藤 満	東京工業大学	竹中 正	東京理科大学
井上 博之	東京大学	忠永 清治	北海道大学
今中 信人	大阪大学	田中 勝久	京都大学
奥山 雅彦	日本特殊陶業(株)	谷 俊彦	伊勢久(株)
岸本 昭	岡山大学大学院	中島 章	東京工業大学
北岡 諭	ファインセラミックスセンター	中野 裕美	豊橋技術科学大学
清原 正勝	TOTO(株)	野口 祐二	東京大学
佐伯 淳	富山大学	原田 耕一	東芝研究開発センター
末松 久幸	長岡技術科学大学	矢野 哲司	東京工業大学
菅原 義之	早稲田大学	山崎 広樹	元・公益社団法人日本セラミックス協会
鈴木 達	物質・材料研究機構	脇谷 尚樹	静岡大学

**2019年度フェロー候補者選考委員会** 委員長：牧島亮男、委員：安田榮一、新原皓一、岡田 清、平尾一之、河本邦仁、吉川信一

※本年4月号後付に2020年度フェロー候補者推薦募集要項を掲載しております。

Recipients of The 5th CerSJ Fellow Awards

あかつ たかし  
赤津 隆氏

赤津 隆氏は、セラミック/セラミック複合材料の界面制御とナノインデンテーション法をはじめとする微小領域の機械的特性評価法の開発を通して、セラミックスの機械的信頼性向上における学術上の発展に貢献した。本協会では、エンジニアリングセラミックス部会幹事、セラミックス誌編集委員、学術論文誌編集委員、秋季シンポジウム特定セッションオーガナイザーを務めるなど、特にエンジニアリングセラミックス分野の活性化を積極

的に行い、協会の活動に大いに貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1991年東京工業大学大学院材料科学専攻博士課程中退。1991年東京工業大学工業材料研究所助手。1998年博士(工学)。2006年東京工業大学応用セラミックス研究所助教授。2015年佐賀大学教授。

あわの まさひろ  
淡野 正信氏

淡野正信氏は、酸化物セラミックスの微細構造制御プロセスによる高機能化研究に一貫して携わり、酸化物高温超電導体やシナジーセラミックス(ナノコンポジットや環境浄化)の開発を経て、NEDO「セラミックリアクター開発」のPLとして世界初のセラミックス高性能小型燃料電池を実現し、省エネと低炭素化推進にセラミックス材料技術が中核的な役割を果たすことを世界に先駆けて示した。この成果は、セラミック電気化学リアクターが現在、グローバルな技術優位性を示す礎となっている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1982年北海道大学理学部地質学鉱物学科卒業。1983～1984年興亜開発(株)。1985年通産省名古屋工業技術試験所研究員。1996年英バーミンガム大客員。1999年シナジーマテリアルセンターTL。2004～2009年岐阜大院客員教授。2005～2009年セラミックリアクターPL。2013～2017年研究部門長。2018年産業技術総合研究所中部センター所長。

いとう みつる  
伊藤 満氏

伊藤 満氏は固体化学を基盤とする独自の物質設計指針に基づいて、イオン導電性、磁性、誘電性、蛍光性、強誘電性新物質酸化物系の数多くの新物質の合成に成功した。これらのいずれの研究も材料分野のみならず物理、化学分野にも大きな波及効果を及ぼしている。これら物質の機能発現の解明に関する研究を通して日本人のみならず多くの外国人研究者を含むセラミックス基礎分野の研究者を育成しており、セラミックス基礎分野の発展への寄与は大きい。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1982年3月東京工業大学大学院総合理工学研究科材料科学専攻博士課程修了。同年7月大阪大学工学部助手。1988年4月東京工業大学工業材料研究所助教授。1999年11月同応用セラミックス研究所教授。2013年4月～2015年3月同所長。

いのうえ ひろゆき  
井上 博之氏

井上博之氏は、ガラスの原子配列の解析とその計算機シミュレーションを通じ、ガラス構造の解明とガラス状態の理解に多大な貢献をした。特に新しいガラス組成において、特徴的な特性とそのガラスのもつ原子配列の関係を明確にした。同氏は、ガラスの分野における国際的な活動として、ICGのManagement BoardとSteering Committeeの委員として活動し、世界的な視野での日本のガラス材料の分野の存在維持・向上のために、ICGの会議の誘致活動を行い、2018年に

はICG年会を組織委員長として横浜で開催している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1987年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。2005年～現在東京大学生産技術研究所教授。2017～2018年日本セラミックス協会ガラス部会長。

いまなか のぶひと  
今中 信人氏

今中信人氏は構成元素、材料の結晶形態、構造の基本的な観点からものを突き詰め、『熱力学』の観点をも考慮に入れた上で、これまでの「旧い常識」を覆す新しい概念に基づいた数々のイオン伝導性固体の創成を成し遂げた。このように同氏は明確なコンセプトの元、多価を含む純粋なイオン伝導性固体を数々構築しており、固体科学、材料化学分野において多大なインパクトを与えてきた。また、本協会においては理事、基礎科学部会長などを

務め、協会の活動に貢献してきている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1981年大阪大学工学部卒業。1986年大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。2003年大阪大学大学院工学研究科教授。



おくやま まさひこ  
奥山 雅彦氏

奥山雅彦氏は、種々のセラミックスプロセスを用い、生体材料を中心とした各種のセラミックス製品の研究開発を行い、人工股関節用セラミックス骨頭、硬化型骨補填材等の事業化を果たし、セラミックスの発展に多くの貢献を成した。

本協会においては、学術論文誌編集委員、代表理事(副会長)の役職を務め、また現在は監事として本協会の活動に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1981年東京工業大学大学院理工学研究科無機材料工学専攻修士課程修了。同年日本特殊陶業株式会社入社。2015年同社取締役常務執行役員、技術開発本部本部長。博士(工学)。



きしもと あきら  
岸本 昭氏

岸本 昭氏の研究は、セラミックスの機械特性と電気特性を積極的に関連づけようするところに特徴がある。その結果イオン伝導を損なわない強化法や電氣的に脆弱部材を選別するスクリーニング法を考案している。超塑性の応用やミリ波プロセッシングの基礎となる拡散促進やイオン移動の増速にも研究業績を上げている。本協会においてはセラミックス誌・学術論文誌編集委員、教育委員会・運営企画委員会・行事企画委員会・科学技術委員会で委員を歴任している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1989年東京工業大学大学院工学系研究科工業化学専攻博士課程修了(工学博士)。同年東京大学助手。1994年講師、1997年助教授を経て2003年岡山大学教授(工学部、大学院自然科学研究科)。この間2007年熊本大学客員教授。



きたおか さとし  
北岡 諭氏

北岡 諭氏は、高温における物質移動を熱力学的/速度論的視点から精緻に解析し、それに基づく材料設計指針によりセラミックスの耐環境性を向上させるためのセラミックスの基礎科学を進展させるとともに、産業応用上きわめて重要なセラミックスの信頼性向上に大きく貢献した。また、同氏は学術論文誌編集委員、セラミックス誌編集委員として協会の発展に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1988年3月早稲田大学大学院理工学研究科博士前期課程修了。同年4月ファインセラミックスセンター入所。1994年名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程修了(工学)。2017年ファインセラミックスセンター主幹研究員。



きよはら まさかつ  
清原 正勝氏

清原正勝氏は、微粒子の常温衝撃強化現象を用いた新しいコーティング技術(エアロゾルデポジション法)の特徴を駆使し、世界で初めて製品化に成功。その製品は、装置からの発塵を抑えた「耐プラズマ部材」として、次世代半導体製造装置に採用。半導体産業発展に大きく貢献している。本協会においては、行事企画委員長、協会賞選考委員等を経て、現在は関東支部副支部長、エンセラ部会副委員長を務めている。また、第69回技術賞、第49回大倉和親記念財団表彰を受賞。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1985年3月長岡技術科学大学大学院修士課程修了。同年4月東陶機器株式会社入社。2005年総合研究所基礎研究部長。2012年TOTOファインセラミックス取締役 生産技術部長。2017年TOTO株式会社フェロー総合研究所副所長。博士(工学)。



さいき あつし  
佐伯 淳氏

佐伯 淳氏は、機関誌編集委員、論文誌編集委員、粉末回折データ専門委員として各種の協会活動に意欲的に取り組んできた。さらに地方大学の教員として、支部の中で最も小さな北陸支部での秋季シンポジウムの開催や各種協会活動、行事の提案企画から運営実務まで様々な立場で意欲的に取り組み、独自の工夫やアイデアで地方に於けるセラミックスの普及や人材育成に尽力し、それぞれに成果を上げてきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1989年3月東京工業大学無機材料工学専攻博士後期課程修了。同年4月東京工業大学工学部助手。2003年11月富山大学工学部助教授、2010年2月教授。2018年同学術研究部都市デザイン学系教授。



すえまつ ひさゆき  
末松 久幸氏

末松久幸氏は、超高酸素分圧下で合成した銅酸化物に有機物分子を侵入させて11種の新超伝導体を発見すると共に、格子欠陥の導入によりセラミックスの機械的性質改善が出来ることを見出し、セラミックスの新しい創成・機能改善手法を開拓した。また、同氏はパルスパワー技術を利用した超微粒子・薄膜作製法の開発を行い、室温大気中で保管可能な初めてのTi, Zr, Mg超微粒子作製と平均径予測理論式構築で量産装置開発と粒子販売

に道を拓いた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1991年東京工業大学博士後期課程修了。1991年ロスアラモス国立研究所ポスドク、1993年新技術事業団特別研究員、1995年東京工業大学助手、2000年長岡技術科学大学助教授(現教授)。



すがはら よしゆき  
菅原 義之氏

菅原義之氏は、有機合成化学や高分子化学の手法やインターカレーション化学を活用し、プレセラミックポリマーからの非酸化物合成、ポリマーと層状物質の複合体からの非酸化物合成、選択的溶解による新規層状酸化物の合成、表面を有機修飾したナノセラミック材料分散ポリマーハイブリッド材料の作製などに関する研究を手掛け、セラミックス並びにハイブリッド材料合成手法の発展に貢献した。また同氏は行事企画委員長、論文誌編集委員

長、理事として協会の発展に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1988年早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。1998年米国MIT博士研究員、1990年早稲田大学専任講師、助教授を経て2000年同学教授、2007年仏国モンペリエ第二大学招聘教授。



すずき とおる  
鈴木 達氏

鈴木 達氏は、新規プロセスの開発に関して独創的な取り組みを行ない、巧緻な微構造制御と異方性制御を可能にした。磁化率が小さい反磁性、常磁性セラミックスにおいても、強磁場を用いることで結晶配向制御が可能であることを見出し、高次微構造制御可能なプロセスの創出と発展までの研究を主導してきた。このプロセスは普遍性が高く、精緻な配向化技術として注目される。セラミックス編集委員、学術論文誌編集委員、出版委員会委

員等を歴任し、当協会の発展に努めた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1995年早稲田大学大学院博士課程修了、博士(工学)、早稲田大学助手、金属材料技術研究所研究員、物質・材料研究機構主席研究員を経て、2016年セラミックスプロセッシンググループ、グループリーダー。



すだ あきひこ  
須田 明彦氏

須田明彦氏は、①三元触媒高性能化のキー技術である酸素貯蔵材料、セリア・ジルコニア系複合酸化物に関して1995年から現在まで革新的技術を生み出し続け、世界の排ガス浄化触媒技術向上に貢献した。②上記技術の基礎をなす、新しい湿式合成技術の研究、結晶構造と酸素貯蔵能の材料科学的な解明に関する研究成果を、本協会論文誌を始め、学術論文誌に発表し本技術の進歩に貢献した。③本協会誌編集委員、秋季シンポジウムオーガナイザー、協会賞選考委員としても貢献し

た。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1981年3月 東北大学工学部金属加工学科卒業 1983年3月 東北大学工学研究科金属材料工学専攻修了 1983年4月 豊田中央研究所入社、現在に至る。2005年3月大阪大学論文博士(工学)物質化学。



すやま しょうこ  
須山 章子氏

須山章子氏は、エネルギー機器全般のセラミックス材料・プロセス開発に携わり、高強度反応焼結炭化ケイ素セラミックスを開発して、宇宙望遠鏡用ミラーの実機への搭載を推進した。また、高温耐久性を有する炭化ケイ素基長繊維複合材料を開発し、発電用ガスタービンの高温部品や原子炉の事故耐性炉心材料への適用を推進した。また、本会の理事、エンジニアリングセラミックス部会長を務め、本会の発展に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1986年横浜国立大学工学部卒業、同年(株)東芝入社。現在、東芝エネルギーシステムズ(株)シニアエキスパート、博士(工学)、日本学術会議連携会員、日本産業標準調査会臨時委員、東京工科大学客員教授。



たけなか ただし  
竹中 正氏

竹中 正氏は、これまで長年にわたり電子セラミックスに関する研究に従事されてきた。とりわけ、「環境にやさしい非鉛強誘電セラミックスの研究開発」および「粒子配向型強誘電セラミックスの研究開発」の両研究開発はたいへん先駆的で、長年に渡りこの分野をリードされるとともに、電子セラミックス分野に多大なる貢献を果たしてきた。また、本協会においては、理事、電子材料部会長等を務め、協会の活動にも貢献してきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1970年芝浦工業大学卒業、1973年電気通信大学大学院修了後、1985年工学博士(京都大学)、1973年東京理科大学理工学部電気学科助手、講師、助教授を経て1996年教授、2013年同大名誉教授。



ただなが きよはる  
忠永 清治氏

忠永清治氏は、ゾル-ゲル法などの液相法を用いた様々な機能性セラミックス材料の合成と評価に関する研究に取組み、この分野の発展に貢献してきた。本協会においては、行事企画委員会(秋季シンポジウム担当)、ガラス部会、関西支部および東北・北海道支部の委員・役員、さらに行事企画委員長、経理理事を務め、協会の発展に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1990年3月大阪府立大学工学部卒業、1992年3月京都大学大学院工学研究科修士課程修了、1992年4月大阪府立大学工学部助手、2000年7月同助教授、2013年4月北海道大学大学院工学研究科教授。



たなか かつひさ  
田中 勝久氏

田中勝久氏は、遷移金属とその酸化物を主な対象として磁性と光物性に係る研究を展開し、酸化物ガラスの反転対称性の破れと2次非線形光学効果、磁気的フラストレーション系のスピンドライナミクス、短波長ファラデー効果材料の開拓、原子配列の非平衡凍結に基づく磁気機能の発現、金属ナノ粒子を利用したランダムレーザー発振などの成果を挙げた。また、学術論文誌編集委員、関西支部企画委員、理事として協会の発展に寄与した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1984年京都大学工学部工業化学科卒業、1986年京都大学大学院工学研究科修士課程修了、同年三重大学助手、京都大学助手、京都工芸繊維大学助教授を経て、2004年京都大学大学院工学研究科教授、2017年京都大学福井謙一記念研究センター長。



たに としひこ  
谷 俊彦氏

谷 俊彦氏は、電子材料を中心に無機物質の結晶成長を研究し、従来の単結晶および多結晶の機能を高める製造プロセスを設計し、提案した。特に、トポケミカル転換反応を利用して多結晶の優先方位を制御する反応性種結晶粒成長法を考案し、圧電セラミックスの飛躍的性能向上に寄与する研究開発を先導した。また、これら企業研究を通しての産業貢献に加え、連携大学院では博士課程学生を指導し、本協会では論文誌編集担当理事を務め、

セラミックス技術の発展に幅広く貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1982年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了・豊田中央研究所入社、1994年イリノイ大学大学院博士課程修了、2006年豊田工業大学連携客員教授、2016年日本セラミックス協会論文誌編集担当理事。



なかじま あきら  
中島 章氏

中島 章氏は、環境浄化用セラミックス材料、ならびに固体表面での濡れ制御の研究を通じて、様々な手法を用いて固体の表面/界面の構造や組成をナノレベルで制御するとともに独自の評価方法を開発し、構造や組成の特徴と、そこにおける物質(水)・電子等の振る舞いを解明することにより、表面機能材料の設計指針を明らかにしてきた。これらの研究成果は環境保全や省エネルギーに繋がるセラミックス材料科学の発展に貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

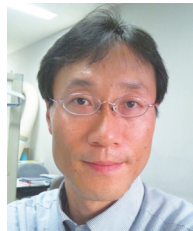
**略歴** 東京工業大学無機材料工学科、同大学院修士課程修了、民間企業を経て1997年ペンシルバニア州立大学大学院博士課程修了、東大先端研、ベンチャー企業を経て、2003年東京工業大学助教授、2009年より同大教授。

なかの ひろみ  
中野 裕美氏

中野裕美氏は、自己組織的に周期構造を形成するスマートマテリアルを活用した材料合成と、電子顕微鏡を駆使して評価・解析を行い、新規蛍光体や短時間合成炉については、企業等と連携した特許登録など、産学連携でも成果を上げた。また同氏は、行事企画委員、編集委員、理事として協会の発展に貢献してきた。特に、男女共同参画委員会を立ち上げ、初代委員長として活動推進に尽力し、セラミックス分野の男女共同参画を牽引した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1983年3月豊橋技術科学大学大学院工学研究科修士課程修了。同年村田製作所、1989年龍谷大学実験講師を経て、2009年6月豊橋技術科学大学准教授、2012年同大学教授、2018年同大学副学長、博士(工学)。

のぐち めうじ  
野口 祐二氏

野口祐二氏は、欠陥化学に基づく誘電体セラミックスの材料設計指針を提唱し、新規な分極機能の発現や強誘電体の高特化に貢献した。特にビスマス系ペロブスカイト型誘電体の研究において、フェリ誘電体の発見や可視光起電力効果の発現等、世界的に高く評価される成果を発表している。同氏はセラミックス誌編集委員、論文誌編集委員、各種委員として協会の運営に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1997年長岡技術科学大学博士課程修了。同大学助手を経て、1998年東京大学大学院工学系研究科助手、講師、准教授。2003年から2009年、科学技術振興機構さきさきがけ研究員、同機構戦略的創造研究推進事業(SORST)研究員(兼任)。

はらだ こういち  
原田 耕一氏

原田耕一氏は最高の圧電定数( $d_{33} > 2000\text{pC/N}$ )を示す高品質の鉛系圧電単結晶の実用サイズへの大型化に世界で初めて成功。これを用いた医用超音波プローブは感度・解像度に優れることを実証した。現在も同系列材料を用いたプローブが医療現場で診断に用いられており、装置実現と医用診断の質向上に貢献した。また、セラミックコンデンサ、セラミック/金属複合材等の研究開発に実績があり、当協会の電子材料部会役員として論

文誌編集等の活動を行っている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1991年3月青山学院大学理工学研究科物理学専攻修了。1991年4月(株)東芝入社。2001年9月東京工業大学理工学研究科材料工学専攻博士課程修了(工学博士)。現在までセラミックス研究開発に従事。

やの てつじ  
矢野 哲司氏

矢野哲司氏は、高温熔融プロセスを軸とし、ガラスの科学・工学について幅広い着眼点と独自の発想をもって研究を行ってきた。高温ラマン分光法、高温X線CT分析法など関し新規な手法を生み出し、ガラス製造や放射性廃棄物ガラス固化など、産業や社会において極めて重要な問題の理解を進めてきた。また、ガラス融液の構造を詳細に調べ、ガラス形成機構、分相、ホウ酸異常など、融液～ガラスの種々の現象についてモデルを提案するなどガラス科学の学術的な寄与も大きい。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1987年3月東京工業大学工学部無機材料工学科卒業。1989年3月同大学院理工学研究科無機材料工学専攻修了。1989年9月東京工業大学工学部助手。2003年4月同大学院理工学研究科助教授。2014年4月同教授。現在、同物質理工学院教授。

やまざき ひろき  
山崎 広樹氏

山崎広樹氏は旭硝子(株)においてデイスプレイガラスの製造・技術開発に携わり、ガラス窯への重油酸素燃焼技術導入では技術課題の解決に貢献した。本会では専務理事として、公益法人化直後の改定協会組織運営の確立に尽力し、協会活動活性化では、協会の直面する課題や解決取組策を中期経営計画に取り纏め、会員数減少、財政規律、Web会員、公益事業見直し、アジア版ジャーナル発刊、国際会議の日本開催推進、表彰制度の大幅見直し、男女共同参画活動などの推進に努めた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1974年3月成蹊大学工学部工業化学科卒業。同年4月旭硝子(株)(現AGC)入社。2002年3月高砂工場CRTガラス部長。2007年7月本社ディスプレイ生産技術第1部長。2011年6月(社)日本セラミックス協会専務理事。2017年6月同監事。



わきや なおき  
脇谷 尚樹氏

脇谷尚樹氏は、電子セラミックス薄膜分野の研究にバッファ層の導入による異種界面における結晶化、結晶性の向上、配向制御の技術の確立、および、外部刺激(成膜時の磁場印加)を用いることによりバルクでは発現しない微構造や機能を薄膜で発現させることに成功するなどの成果を挙げた。同氏のこれまでの研究は学会と産業界に新たな風を吹き込むとともに協会の活性化や協会誌・国際的なシンポジウムのテーマの実施などにより大

きな貢献をしてきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 1992年12月東京工業大学大学院理工学研究科無機材料工学専攻博士後期課程中退、1993年1月東京工業大学工学部助手、1995年11月博士(工学)、2006年10月静岡大学工学部助教授、2007年10月同教授。